

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者）	・東京オリンピックが近づくとつれて、関連事業等で景気はどんどん良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・先行きの賃金上昇に期待する。
		百貨店（企画担当）	・前年は消費税増税前の駆け込み需要があったので、年明け以降、前年実績を上回ることができないが、4月からは反対に、消費税増税後の反動減で前年実績が大きく落ち込んでいるため、プラスに転じると見込んでいる。足元でも食品、レストラン部門や紳士物でも雑貨を中心に前年実績をクリアする部門が出てきており、この傾向は4月以降も続く見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	・来客数や売上高が前年を上回ってきており、景況感が多少上向きに感じられる。
		百貨店（経営企画担当）	・大手企業を中心とした賃金ベースアップの実施や、消費税増税から1年経ち、そろそろ消費マインドも回復基調になると期待される。
		スーパー（経営者）	・先行きも大企業のサラリーマンは給与が上がって消費額も増えるが、大半を占める中小企業で働く人々の給料は増加が見込めない。消費者は、百貨店、スーパー、コンビニやレジャーでもお買得な商品やサービスを購入することが当たり前になっており、お買得なところは客の入りが良い。そのお買得な商品やサービスを支える末端の下請企業が、一番影響を受けており、赤字でも受注しなくてはいけなくなっている。しかし、5月頃には各社の新規開発商品の売行きが良くなって、経済は徐々に良くなる。
		スーパー（店長）	・当地域は自動車等の製造業が多く、今の状態が続けば春闘ではベースアップが見込まれ、可処分所得が増えて消費の拡大に向かうものと思われる。
		スーパー（商品開発担当）	・ガソリン価格が値下がりして、車を利用する外出が増える。車での移動が主となる当地域では、景気の動きにも良い方向に作用すると思われる。
		スーパー（支店長）	・前年の消費税増税の影響でここ数か月は厳しくなるかと思うが、アベノミクスの効果に、希望も交えて僅かな期待を持っている。
		コンビニ（企画担当）	・農業分野では、良い物を作ろうとする意欲を妨げる重い雰囲気があるが、農協改革が少し動き出し、規制緩和の進展が雰囲気を明るくする。消費者は質の良さを求めており、米の需要も一様に減っているわけではない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の回復が全体の数字を押し上げる要因となる。春は生活環境の変化やスタートの時期で、春の大型キャンペーンや新商品が効果をあげれば、数字を更に押し上げる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数には徐々に回復の兆しがあるので、消費税増税から1年となる4月からの上昇に期待する。
		家電量販店（店員）	・前年4月の消費税増税後から続いている、売上にブレーキがかかった状態を抜け出せそうに感じる。
		乗用車販売店（総務担当）	・賃金が上昇すれば、消費も少しずつ盛り上がる。
		住関連専門店（営業担当）	・新築の持家住宅が持ち直している。また、引き続きリフォーム需要がおう盛である。非居住分野のオフィスビルや公共工事の現場も増加している。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・異動の時期で、販売量が伸びる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・現政権の安定感が経済の安定にも寄与し、消費マインドの上昇が期待される。
		高級レストラン（役員）	・過去の経験から、株価が上昇すると、それに伴って来客数・客単価も増加・上昇する傾向がある。
	一般レストラン（従業員）	・2月で寒さが底を打ち3月以降は暖かくなるにつれて、客の外出も増えるので、売上也増加する。	
	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・新年度を迎えて気持ちも新たになることで、若干、財布のひもが緩む可能性はある。	
	都市型ホテル（経理担当）	・宴会件数の増加が見込まれる。	
	旅行代理店（経営者）	・特に大きな不安材料がないので、先行きは少し良くなる。	
	旅行代理店（経営者）	・ガソリン代が下がって気候も良くなると、国内旅行では、マイカーやレンタカーを利用するコースで客が増えることを期待する。海外旅行に関しても、4月以降は、燃油サーチャージの引下げあるいは廃止を期待している。	

	タクシー運転手	・暖かくなると夜の街にも客が増えるので、タクシーもそれなりに忙しくなる。
	通信会社（営業担当）	・NGN（次世代ネットワーク）関連の販売増加や、大手通信事業者との共同商品の販売増加が見込まれる。
	ゴルフ場（企画担当）	・4月からはゴルフシーズンとなることから、安定した数字が残せる。2～3か月先の予約状況を見ると、前年同日と比べて4～5月分は順調に推移しているので、今後は多少良くなる。
	美容室（経営者）	・これから春になり、客も出歩くことが多くなるためパーマをかける回数が増え、忙しくなる。
	美顔美容室（経営者）	・4月から新たなキャンペーンが始まるので、新規客が少しは増加する。
	その他サービス [介護サービス]（職員）	・介護業界は歴史が浅いため、企業としては経営改善の余地が多い。その点を対処していけば、景気の底上げにもつながっていく。
	住宅販売会社（従業員）	・贈与税の改正や住宅エコポイント等の法案が3月中には国会を通るので、今後に期待ができる。
変わらない	商店街（代表者）	・法人関係等の需要が増えず、ゼロに近い状態である。その部分が回復基調になればやや上向く動きが鈍い。
	商店街（代表者）	・周囲を見ても、所得が増えるどころか、消費税増税や物価上昇による負担増加で毎月のやりくりで苦勞している人が大多数である。客の財布のひもは極めて固い。とてもこの先数か月で景気が良くなるようには思えない。
	商店街（代表者）	・客単価や来客数が上向く環境にないことから、この状態が当面は続く。
	一般小売店 [結納品]（経営者）	・地方の小売業にとっては良い材料がなく、この低迷がまだまだ続く。
	一般小売店 [自然食品]（経営者）	・客の様子から、大きく急上昇することはないと思われる。
	一般小売店 [土産]（経営者）	・前々年からの遷宮による好況の反動が続いている。
	一般小売店 [生花]（経営者）	・この先に給料が多少は増えても、消費税増税や物価上昇の影響が大きいので、花を買って楽しむ余裕はないと言う声を聞くので、大して良くなるとは思えない。
	一般小売店 [薬局]（経営者）	・テレビ等では中国人の買物ぶりが話題となり、大きな家電チェーンや大型百貨店は潤っているようだが、地方商店ではそのような恩恵はほとんどない。これから花粉症のシーズンが始まり、更に春を迎えて化粧品等の買物が増えればと期待はしているが、今の時代は待ちの姿勢では売上は伸びないので、様々な施策を考えなければならない。景気が良くなるのは、まだ先である。
	一般小売店 [贈答品]（経営者）	・景気は上向きの方にはあるが、大きな成長はまだ見込めないため、現時点から3か月先ではあまり変わらない。良い物を買いたいという客は増えてはいるが、裾野にまでは広がっていない。
	一般小売店 [土産]（経営者）	・販売量が大きく変わる理由が見当たらない。
	一般小売店 [果物]（店員）	・3か月ほどでは販売量の動きは変わらない。
	百貨店（売場主任）	・客層別に見ると、昼間は年配の客や夫婦での来店や、夕方には仕事帰りの客や出張中のついで客が増加しており、客足が安定してきているので、この先は売上の安定も期待している。
	百貨店（売場主任）	・必要最低限の物のみを購入するという買い控えの傾向が続く。
	百貨店（経理担当）	・一部の高額品には動きがあるが、全体としては動きにさえがない。
	百貨店（経理担当）	・良くなる要因は見当たらないが、春らしい暖かい日が続いて、春物衣料が活発に動くことを期待する。
	百貨店（経理担当）	・賃上げの動きは業績の良い一部の大企業に限られており、中小企業を含む経済全体では、可処分所得の増加が期待できず、景気は持ち直すことはないと考える。
	百貨店（営業企画担当）	・今後も消費の二極化が進み、全体として見れば厳しい商況が続いていくと考える。
	百貨店（販売担当）	・中間所得層から下においては、大企業の賃上げ等からトリクルダウンを待つという状態では、購買意欲は高まらない。
	スーパー（経営者）	・現状の様子からは、先行きも良くなる理由が見つからない。
	スーパー（店長）	・現状は良い状態であるが、商品の値上がり等の影響で、更に良くなることは考えにくいので、先行きは横ばい状況が続く。

スーパー（店長）	・消費税増税後の反動による買い控えが続いている。メーカーの商品値上げの発表もあり、客の買い控えはまだ続きそうで今後も良くなる感覚はない。先行きが不安である。
スーパー（店員）	・バターやアイス等乳製品の値上げ要請があり、価格変更が客足にどう影響するかを見守る必要がある。
スーパー（店員）	・販売量や来客数は徐々に増えてきてはいるが、今がピークのような動きであり、この先はわからない。
スーパー（総務担当）	・特売チラシを配っても、客への訴求力に欠け効果がない。
スーパー（販売促進担当）	・前年3月には消費税増税前の駆け込み需要があったので、前年並みの数字達成はかなり厳しい。
コンビニ（店長）	・先行きが良くなる要因も悪くなる要因も見つからない。株価の上昇とともに、景気回復が実感できるようになってほしい。
コンビニ（エリア担当）	・今月のような厳しい状況が、当分は続く。
コンビニ（店長）	・客の様子や周囲の状況から見て、先行きも変化はない。
コンビニ（商品開発担当）	・客足は低迷しており、特にたばこやデザート等し好品の落ち込みが激しい。店舗で使用する消耗品の価格高騰も痛手である。水道光熱費やガソリン代等、暮らしに身近な支出が増える中で、当面は厳しい状況が続く見込みである。
衣料品専門店（経営者）	・暖かくなれば、客にも商品を勧めやすくなる。
衣料品専門店（販売企画担当）	・今月の販売量が増えたのは突発的な要因に感じるため、先行きも続くような雰囲気ではない。
衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・自分の周りではこの数か月間不振が続いており、この流れから良くなるとは思えない。しかし、更に悪くなる要因も見当たらない。
家電量販店（店員）	・テレビのデジアナ変換放送が3月で終了となり、テレビが売れる地域もあるが、当地域は該当しないため、特に目立った変化はなさそうである。
家電量販店（店員）	・原油価格が低い水準で推移しているので今のところは助かっているが、経済全体に金が回っていない。出店条件も厳しいものであり、先行きに対する警戒感と、積極的に動かなければというジレンマが感じられる。
乗用車販売店（経営者）	・先行きが変化しそうな要因が見当たらない。
乗用車販売店（従業員）	・インターネット広告の閲覧数は悪くなく商品も動きそうであるが、実際にはあまり動いていない。金額面でも厳しい。具体的に悪くなりそうな要素があるわけではないが、先行きは不透明である。
乗用車販売店（従業員）	・これから先には大きなイベントや変化の兆しがない。エコカー減税等の自動車税制の動きを見ると、どちらかと言えば弱含みではあるが、それほど大きな要因ではない。
乗用車販売店（従業員）	・ベースアップ等、景気の良い話題も報道されているが、客との話の中では他人事に感じている人が多く、自分の懐具合は相変わらず厳しいという声が多い。そのような状況ではあるが、新型車の発売が来年度に予定されており、新型車の話題から市場が盛り上がることを期待したい。
乗用車販売店（従業員）	・国民全体が前向きに喜べるような大きな話が出てくれば別であるが、そのような話題も見当たらないため、良くない状態が続く。
乗用車販売店（経理担当）	・景況感が好転の兆しという報道も見かけるが、今のところそのようには感じられない。消費マインドの低迷が続いており、まだまだ景気の回復には至ってない。
その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・客単価、販売量や来客数等の数字に若干の増減があるとは思いますが、大幅に景気が良くなる要因はないため、あまり変化しない。特に、上位層の客は、景気の影響は直接受けていないように感じる。
一般レストラン（経営者）	・人の動きが良くなる理由が見当たらない。
都市型ホテル（従業員）	・予約数の動きには変化が見られない。
都市型ホテル（支配人）	・光熱費や食材・輸入品の価格が大幅に上がっているため、価格に転嫁できなければ、先行きは厳しくなる。
旅行代理店（経営者）	・天候不順や海外でのテロ等で、旅行需要がかなり停滞しているが、中東情勢が落ち着き、天候が安定すればレジャー関連の需要は伸びてくる。
旅行代理店（経営者）	・円安で原材料価格が上がり、春には値上げする商品が多いためか、消費は拡大しているようには感じられない。海外旅行も円安の影響で減少傾向になっている。

旅行代理店（従業員）	・海外旅行は横ばいが続く。一方、国内旅行は、トワイライトエクスプレスの最終運行日や北陸新幹線開業日の予約が瞬間で完了したように、余暇を旅行に充てる需要はますます存在する。イベント効果を期待した旅行商品はこれから先も増え、それなりに申込が見込まれる。	
旅行代理店（従業員）	・大企業に勤める人は春闘のベースアップで景気が良くなるが、中小・零細企業に勤めている人はそうはいかず格差が広がっていく。景気の良い人は旅行もできるが、それ以外の人はなかなか難しい。	
タクシー運転手	・良くない状態が長い期間ずっと続いているため、これから2～3か月では良くならない。	
タクシー運転手	・この先、コーヒー、牛乳、アイスクリームや食用油等の値上がりを抑えている。中小企業に勤める人の給料が上がらない状況では、景気は良くはならず横ばいである。	
通信会社（企画担当）	・大手メーカーは海外生産が好調で、企業業績としては好調であるが、社員はその恩恵を受けておらず、地域全体としては、まだまだ停滞が続く状況である。	
通信会社（サービス担当）	・携帯電話会社との連携商品が販売開始となり、光回線の注文が今後も増加する。	
通信会社（営業担当）	・給与の手取り額が目に見えて増えない限り、このままの状況が続く。	
テーマパーク（職員）	・海外旅行者に期待できる面はあるものの、メイン商圏からの集客は減少傾向のため相殺される。	
美容室（経営者）	・景気が上向いているという話も聞かれるが、物価も上がっているため、客には景気が良くなっているという実感はない。	
設計事務所（職員）	・特に今のところ、将来的に経済的な効果をもたらすような景気対策が望めないため、良くなる可能性は低い。	
その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・足元の繁忙期はそれなりに忙しいが、繁忙期を過ぎてその先の4月以降が非常に不安である。	
その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・見積件数や引き合い状況が低調である。	
やや悪くなる	一般小売店〔食品〕（経営者）	・円安に伴う商品の値上がりはこれからも続く。商店街でもテナントの入替わりが目立っており、経営の安定化はなかなか難しいようである。景気の回復は、もうしばらく先である。
	百貨店（販売担当）	・当社製品を含めて4月に価格改定を行うブランドが多い模様であり、改定後は売上が落ち込む。
	スーパー（店長）	・消費税増税から1年となるが、来客数の低迷が続く中で客単価が増税前の水準に戻ると、売上は前年を割る恐れがある。また、競合先の出店等から売上の確保は一層難しくなることが見込まれる。
	コンビニ（エリア担当）	・店の周辺に大手メーカーの工場が幾つかあるが、工場の稼働状況が悪くなっており人の動きも減少してきているので、来客数や販売額が減少する。
	コンビニ（店長）	・目的買いの客が多く、必要な物以外は買わない購買意欲の低さを感じている。
	乗用車販売店（営業担当）	・エコカー減税の縮小と軽自動車の自動車税増税の影響で、買い控えが起こる。
	乗用車販売店（従業員）	・3月は決算期であり、自動車税増税前の駆け込み需要が本格化する最終の時期でもあるが、人気車種は既に納車が間に合わなくなっており、販売量の確保は現場でどれだけ対応できるかにかかっている。また、減税制度が終了すると一気に需要が冷え込む可能性もあり、先行きは楽観視できない。最近の客は、格安車検等の目先の価格に反応する傾向がある。また、4月以降の減税終了後も何らかのキャンペーン等で差額は還元してもらえると見込む客も多く、契約が進まない。
	乗用車販売店（従業員）	・4月からはエコカー減税の条件が大幅に厳しくなり、ハイブリッド車以外の車種では諸経費にかかる税金が増えるため、例年でも厳しい時期に、追い討ちをかけて厳しくなる。
	乗用車販売店（販売担当）	・3か月後には自動車取得税と重量税が上がっているため、販売量は減少する。
	その他専門店〔書籍〕（店員）	・例年ゴールデンウィークは、レジャー代への支出が増えることが多く、売上は減少する時期となる。
	観光型ホテル（経営者）	・前年のような消費税増税前の駆け込み需要がなく、4月12日には県議会議員選挙も控えているため、需要は非常に弱く推移しており、やや悪くなる状況となる。これといった経済政策が見られないが、政府が何らかの需要喚起策を実施しなければ、このままじりじりと景気が下降する。

		観光型ホテル（販売担当）	・前年4月は消費税増税後の反動減を心配したが、宿泊人数が3割以上増加という特需に恵まれた。しかし、現在の予約状況では、この先良くなるとは言えない。
		都市型ホテル（経営者）	・インバウンドの客をあまり扱わないビジネスホテルとしては、今後も良くはならない。
		旅行代理店（経営者）	・問い合わせ件数が減少し例年以下となっており、景気回復の兆しを感じられない。
		観光名所（案内係）	・新年度に入れば物価も安定し景気が良くなるということが、具体的には見えないため、良くなることはない。
		パチンコ店（経営者）	・業界全体が低単価重視の方向となっている。
		理美容室（経営者）	・給料は増えない一方で物価は上昇しているため、これからもっと厳しくなる。
		美容室（経営者）	・都市部と違って地方では、景気が良くなるという見通しがまだ立たない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護保険の報酬がマイナスに改定される。福祉用具貸与は公定価格ではないが、間接的な影響が懸念される。
		設計事務所（経営者）	・小規模案件がしばらく増えていたが、再び低迷している。大規模案件だけでなく中規模程度の案件も、減少が続いている。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・予算的に余裕がない仕事ばかりであり、景気が回復基調にあるとは思えない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・今は年度末で多少商品に動きがあるが、年度が明けると販売は落ち込む時期となる。
		商店街（代表者）	・前月に続き、販売量からも客の様子からも、すべてに関して良くなる兆しを感じられない。商品単価は上がりつつあるが、数量が売れなければ効果がない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ふだんの外食は控える傾向が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車税増税前の駆け込み需要の反動で、4月以降は一気に需要が落ち込むことが予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産業界全般を見ると、この先どうなるか見当がつかない。
		住宅販売会社（従業員）	・建売分譲住宅が売れない。同業他社が決算期に倒産するようなことがあれば、消費者のマインドは更に冷え込む恐れもあって不安である。
	良くなる	窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工件数が増加している。
企業動向関連 (東海)	やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・春以降に給与所得が増えることを期待する。一部の企業だけではなく、平均的な底上げが望ましい。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・4月以降のベースアップの話題が増え、株価高、円安が続く状況で、景気は回復に向かっている。
		化学工業（営業）	・4月から樹脂原料が大幅に下がる見込みである。仕入れ原料のコストが下がり、収益率の向上につながる。
		化学工業（人事担当）	・世界情勢に大きな変動がなければ、先行きは良くなるが、欧州や中東での不安要素があるため、やや良くなる程度にとどまる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・この先に紛争問題や経済的な課題がクローズアップされることはあるかもしれないが、目先は比較的安定しているため、現状の受注状況が続く見通しである。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・この先数か月は、今のままで設備投資関連の需要が続く。
		輸送業（エリア担当）	・円安が定着してきたので、製造業の国内生産・輸出型へのシフトが進んでいる。
		輸送業（エリア担当）	・前月と同様に軽油価格は前年比で30円ほど下がっている。貨物の荷動きも良くなっており、よう車（他の業者から借りる車両、ドライバー）の確保には苦労が続いている。
		輸送業（エリア担当）	・4月から戦略商品の発売を控えており、社内では営業ムードが高まっている。
		通信会社（法人営業担当）	・春闘での賃上げ見込みは、消費者のマインドに明るい兆しである。今は大企業のみが潤ってはいるが、それが設備投資、税収増加を通じて国の借金返済や年金の運用改善につながる期待から、徐々に明るさが見えてきている。ただし、欧州での財政問題、原油価格の上昇転換、輸入品価格の上昇といった不安材料も山積しているため、予断を許さない状況である。
		金融業（法人営業担当）	・原油安による燃料・原材料価格の下落が、中小企業の業績を改善するものと期待される。また、円安に伴い海外からの観光客が増加している。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・大手自動車メーカーの業績が良いので、折り込み広告の増加が期待できる。
		行政書士	・荷物が多少は増える一方で、ドライバー不足が続いており経営者泣かせの状況である。

	会計事務所（社会保険労務士）	・ 運転資金向けではなく、設備投資のための借入金が増えてきている。
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・ 今の状態が半年も続けば、株価が先行きは2万円を超え、相当な好況感が出てくる。しかし、足元をすくわれることがいつ起こるかかわからないので、経済市場での様々な動向には注意を払う必要がある。
変わらない	化学工業（総務秘書）	・ 経済には明暗両面があり、格差問題も議論となっており、良い悪いの判断がしづらい状況が続く。海外でのテロ事件や戦後70年の節目の年から政治や安全保障面での課題が重要となり、景気にもプラス、マイナスの影響が交錯すると思われる。
	鉄鋼業（経営者）	・ 良くなる要因が見当たらない。客の話の中ではすぐに始まるような仕事の動きはなく、新年度に向けてこれから取り掛かるという、消極的な姿勢が見られる。
	金属製品製造業（経営者）	・ 先行きの引き合い状況は横ばいである。人手不足による工程の遅延等の理由により、納入が先送りとなるケースが出ている。
	金属製品製造業（従業員）	・ 仕事量の確保に苦勞することはないとされるが、プロジェクト頼みで繁忙の差が生じないかが心配である。
	一般機械器具製造業（営業担当）	・ 例年並みの受注が確保できる見通しであり、為替相場も円安基調で落ち着いている。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・ 先行きの受注量の見込みが変わらない。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・ 現状維持を前提とした予算を組んでいる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・ 現在活発に動いている製品は輸出向けのため、為替相場の変動によって先行きを見通しづらい状態が続いている。国内向けの状況はそれほど良くもなく、しばらくこの状態が続く見通しである。
	電気機械器具製造業（総務担当）	・ 景気が良いのは大企業とその周辺に限られている。当地区では、自動車、工作機器関連メーカー以外の景況感は、悪いまま変わらない。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・ 引き続き円安の恩恵を受けて、現状の利益水準を維持する見込みである。
	建設業（営業担当）	・ 会社の景気としては、計数的に厳しくなる状況にそれほど変化はない。
	輸送業（経営者）	・ 国内小売店向けの物量は、回復しつつあるが前年同期比ではマイナスが続いており、住宅関連資材メーカーでは、相変わらず販売量が増えない状況である。
	輸送業（従業員）	・ 円安に伴い輸出関連産業には明るさが見られるが、その一方で輸入原料の値上げにより生産コストの上昇や、製品価格の値上げで消費が落ち込むことが懸念される。業界は、一時的に燃料価格が下がって一服感があるが、一部の荷主からは下落分の値下げ要請もある。しかし、燃料価格が底値から上昇に転じる動きもあり、経営的には不安定な要因となっている。また、荷動きそのものが低調なことから、大手業者の中にも運賃値下げの動きもあり、先行きが不安である。
	輸送業（エリア担当）	・ 前年のような消費税増税前の駆け込み需要がないこと、大企業は過去最高益を上げているが、それ以外の企業は決して良くないという状況から、先行きも景気の上昇はない。
	金融業（従業員）	・ 製造業等は、先行きも今までと同じかやや良くなる程度で、大きな動きは感じられない。その中でも、大手企業は安定しているが、中小企業については不安定な状況にあり生産量等の先行きが見通しづらい。
	金融業（企画担当）	・ 円安、株価高という方向感是不変変わらないが、恩恵を受けるのは資産を持つ人のみであり、資産を持たない人は、給料が上がらないと消費を拡大できない。
	不動産業（経営者）	・ 客には様子見の感があり、先行きも現状維持である。
	不動産業（用地仕入）	・ 景気を大きく左右するような要因が見受けられない。
不動産業（管理担当）	・ これからのアベノミクスの動向にも影響するが、当地区では来年度からリニア関係の投資が増加する。すぐに飛躍的な受注量の伸びは期待できないが、現行程度の需要は確保できるので、変わらない。	
企業広告制作業（経営者）	・ 大企業を優遇した経済政策は、庶民にはぴんとこない。このまま格差が広がれば、不満だけが残る。	
広告代理店（制作担当）	・ 紙の値上げ等もあって特に紙媒体ではこの先も様子見が続く、伸び悩みの状態となる。	
公認会計士	・ 中小企業の収益対策等、実効性のある経済施策が見られない。	
会計事務所（職員）	・ 中小企業で輸出に対応できる事業者はごくまれで、国内市場に頼るので、原価の上昇を製品価格に反映させるのが難しい。	

	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・これから4月に向けて、発注案件に対する取捨選択が大手企業で行われ、見送られた案件が中小企業に流れてくるが、人材を確保できず受注できないケースが発生する。
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（営業本部長） 窯業・土石製品製造業（社員） 電気機械器具製造業（経営者） 輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安に伴う物価の上昇に、賃金の上昇が追い付いていない。 ・現在の発注は年度末の予算消化であると明言されているものがかなりあるため、4～5月には、受注量が減る可能性が大きい。 ・客先の業界では5～6月にはあまり設備投資が行われないので、例年通り売上は落ち込む。 ・ギリシヤの債務問題もあって欧州向けがあまり伸びない。米国以外の景気が良くないため、海外向けに期待ができない。
悪くなる	建設業（経営者）	・地価や建築費の高騰により、資本力があって富裕層を対象とする大手企業は別として、一般庶民を相手にする中小事業者では、当面は苦戦が続く。また、庶民にとっては物件価格の高騰で、持家取得の機会が著しく少なくなる。
雇用関連	良くなる	○
(東海)	やや良くなる	○
	人材派遣会社（社員）	・4月開始分の派遣依頼が、今後は増えてくる。
	人材派遣会社（社員）	・引き続き、企業の正社員求人募集に対してマッチする人材が枯渇しているため、なかなか紹介ができない。
	人材派遣会社（社員）	・歓送迎会の予約状況が良い。
	アウトソーシング企業（エリア担当）	・新車販売台数の回復が見込まれ、緩やかではあるが生産量の増加が見込まれる。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・製造業を中心に賃上げムードが高まっている。また、現実問題として賃金を引き上げないと人が集まらなくなってきている。賃金の上昇は、消費にも好影響をもたらす。
	職業安定所（職員）	・専門・技術職における人手不足感を背景に、保安、建設、サービス、輸送・機械運転等、幅広い業種で求人が増加し、雇用情勢は緩やかな改善の動きが持続する。
	職業安定所（職員）	・求人数は前年同期比、前月比共に増加している。
	職業安定所（職員）	・年度末に向けて消費は拡大する。求人倍率が上昇しており人手不足が更に深刻になっている。従業員の引き留めや求人募集にベースアップが必要であり、賃金が順調に引き上げられれば徐々に良くなっていく。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・中小企業支援の補助金等が本格的に支給されることから、対象企業では、販路拡大、設備投資、新規創業や雇用の増加が見込まれる。これに伴って、世間の雰囲気も含めて景気は上向きに推移すると見込んでいる。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・語学専攻の学生に対する求人では、これまでは英語、中国語の人材募集が圧倒的であったが、最近ではベトナム語やタイ語等の問い合わせも、目立ってきている。
変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・先行きに大きな変動要因は見当たらない。
	人材派遣会社（営業担当）	・景気が上向きという漠然とした感覚はあるものの、実生活での具体的な好影響は感じられないため、先行きに大きな変化はない。
	人材派遣会社（支店長）	・客先の動きとして、4月以降の人材派遣の採用枠も本年度と同水準、あるいは拡大傾向にあるので、景況感としては、現状とほぼ変わらない。
	人材派遣会社（営業担当）	・現在の好況が続く見通しである。
	職業安定所（所長）	・消費税増税の見送りや円安基調が落ち着いていることで、管内企業の大半においては、現状のまま推移すると見込んでいる。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は高い水準を維持しているが勢いはない。人手不足感が厳しい業種では、採算が合わず店舗を閉鎖するところも出始めている。
	職業安定所（職員）	・先行きのプラス要因としては、海外に生産拠点を持つ大手メーカーには円安による影響はなく好調を維持している。一方、マイナス要因としては、大企業は好調であるが、下請の中小企業では仕事は増加しているが競争が厳しく大変な状態が続いている。また、急激な円安でガソリン価格が大幅に下がり、流通関係においては改善の傾向である。求人は増加傾向が続いているが、相変わらず先が読めない状況であるため、正社員よりもパートでの募集が目立つ。
	民間職業紹介機関（支社長）	・5月頃までは採用に関する動きは鈍いと思われる。新卒採用活動の結果が及ぼす影響も現時点ではまだ読めない。
	その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・景気が良くなる兆候は見られないが、悪くなる要因も見当たらない。
やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・先行きは中途採用の動きも一段落し、採用活動が鈍くなる。

	民間職業紹介機関（営業担当）	・3月以降は新卒採用の動きが始まるため、中途採用市場の鈍化が懸念される。
悪くなる	—	—